



特集記事：外国にルーツを持つ子どもたちと向き合って

第48回(令和6年度)

わたしと人権 特選作品



南郷幼稚園 3歳児(当時)
山口 愛依さん
「ノンタンとおともだちいっぱい」



伊香立・真野北幼稚園 3歳児(当時) 田淵 楓香さん
「どんぐりのおともだち」



打出中学校 1年(当時)
小下 杏さん
「みんなちがってみんないい」



和邇小学校 2年(当時)
福岡 琉夏さん
「カラフルの木」



膳所小学校 4年(当時)
中村 昊さん
「どんなときでも あきらめないで」

ポスターの部

詩の部



標語の部

失敗

南郷小学校 4年(当時)

矢野 楓汰さん

失敗してもいいじゃない
次がんばればいいじゃない

失敗しても人の価値は変わらない
失敗は悪いことじゃない

失敗をしない人はいない
だから失敗をしても大丈夫

人がもし失敗しても
怒ったり

おもしろがつたりして笑っんじやなくて
心配したり

笑顔で助けたりした方がいんじやないかな

人の価値は、みんないっしょ
だから失敗しても助け合うのが

大切なんだよ
失敗するほど伸びしろがある

だから失敗をおそれないで

私の幸せ

田上小学校 6年(当時)

奥村 夢依さん

これ私の幸せ
お母さんがつくったごはんを食べる
私が好きなダンスをする

これ私の幸せ
妹と弟といっしょに走り回る
仲のいい友だちと遊ぶ

これ私の幸せ
家族全員で買物に行く
ソファアにすわってテレビを見る

これ私の幸せ
そして、
家族全員で一日のことを話す

これ私の一番の幸せ

これ私の一番の幸せ

- ★友だちと たのしくあそんで えがおまんかい
- ★助け合い 行ったり来たりの プレゼント
- ★おたがいに なりたい自分 好きな自分
- ★そのこぶし つないでみない? ひろげてさ
- ★僕の価値 生きてるだけで それが勝ち

- | | | | |
|--------|--------|----|-------|
| 瀬田北小学校 | 2年(当時) | 本郷 | 大勢さん |
| 瀬田小学校 | 4年(当時) | 平岡 | 百萌さん |
| 唐崎小学校 | 5年(当時) | 西原 | 楓乃さん |
| 栗津中学校 | 2年(当時) | 吉羽 | 晏輝さん |
| 瀬田北中学校 | 2年(当時) | 細井 | 孝太郎さん |

外国にルーツを持つ 子どもたちと向き合って



外国にルーツを持つ子どもたちのために居場所をつくらうと活動している、学生主体のボランティアグループ「日和一寺子屋大津」。外国にルーツを持つ子どもたちは、学校や日常生活で言葉や環境の違いに戸惑うことがあります。今回、日和さんの活動を見学し、お話を伺いました。

はじまりと、大切にしている思い

日和の活動が始まったのは2006年。当時の立命館大学の学生が中心となり、スタートしました。現在は、様々な大学の学生、地域の大人も加わって活動が続いています。

会則には、こんな思いが込められています。

「日本に住む外国にルーツを持つ子どもたちが地域で学んで育ち、孤立せずに暮らしていけるように、心を安心して寄せられ、勉強できる居場所をつくることを通して、子どもたちを支える」

ただ勉強を教えるだけではなく、安心できる場所であることを大切にしています。

毎週土曜日になると、瀬田公民館にペルー、ウズベキスタン、ブラジル、モンゴルといった様々な国にルーツを持つ子どもたちが来ます。主な活動は子どもや保護者と一緒に日本語の勉強や宿題をしたり、受験勉強をサポートしたりすることです。

子どもの声に耳を傾けて

「ある子が『漢字ドリルやりたくない』と言い出したんです。最初は『漢字の勉強が嫌なのかな』と思ったんですけど、ちゃんと話を聞いたら『漢字ドリルで分かるところは楽しいけど、分からないところが多くなったら嫌になった』と教えてくれました。」

子どもの話によく耳を傾けることで、本当の気持ちが見えてきます。進学についても、難しいことが多い。

「日本人なら親から聞いたたりして進路の情報を得られると思うんですけど、進路のことは先生からの情報だけでは得られない子も多いんです。本人は将来理系の大学に進学したいと思っていますけど、先生から就職に強い高校を勧められて、子どもはそのまま『そういうものか』と受け入れてしまうことがある。でも話を聞いてみると、本人のやりたいことは違っていたりして…。だからこそ、一人ひとりの気持ちをちゃんと聞いて、一緒に考えることが必要だと思います」



ボランティアの大学生、
地元の方に勉強を教えてもらう子どもたち

無意識な先入観

こちらの思い込みに気づかされた印象的な出来事があった。

「ある日、スペイン語で『日和に』^{ひより} 参加したい」ってメールが来ました。普段、日本語が分からない参加者も歓迎していて、共通言語を話せるスタッフが対応したり、機械翻訳や本を使ったりしてコミュニケーションをとっているのですが、今回もどうやって対応しようかと考えを巡らせていました。ところが実際に会々と、日本語はちゃんと話せて、読み書きがちょっと苦手なだけでした。そのとき『先入観ってよくないな』ってあらためて気づきました。ゆっくり話せばちゃんと通じるんですよ」

本質的には何も変わらない子どもたち

子どもたちからカルチャーギャップはあまり感じません。課外活動でバーベキューをしたときは、大きい子が小さい子と全力でバレーボールやバドミントンで遊んだり、面倒をみたりして、そこには国籍も年齢も関係なく、お兄ちゃん、お姉ちゃんとして遊んでいる姿がありました。

教室では、勉強の合間に最近観た映画やゲームの話をしたり、トランプをやりたいという子がいれば一緒にしたり、盛り上がります。

「こちらからルーツの国のことをわざわざ聞かないようにしています。本人が話したいなら、話してくれたらいい



ボランティアが見守る中、宿題をする子どもたち

い。日本にいる時間の方が長い子もいますし、アイデンティティを自分の中に落とし込めていない子もいるので、色々聞き出されるのは嫌かなと」

どこの国の人かではなく、ひとりの人として、尊重して接することを大切にしています。

成長を一緒に喜べること

活動が続けていて嬉しいのは、子どもたちの成長に立ち会えることです。

「小学生のときから通っていた子が、大学生になっても顔を出してくれたり、保護者から近況報告をもらうと嬉しいですね。外国にルーツを持つ子が高校、大学と『普通に』進学することが、どれだけ難しいことか」

一緒に過ごした時間が、また次のつながりへと続いていく。そんな瞬間が、活動の喜びです。

ルーツに関係なく、子どもも地域も、ともに歩む

「まずは、先入観を持たず、関わってみること。それが大事だと思います」

地域から少しずつ関わりを広げ、お互いを理解するよう努めていく。一つ一つは小さくても、その積み重ねが、多様性を受け入れている社会に少しずつ近づいていくのではないのでしょうか。

日和一寺子屋大津 毎週土曜日10時～12時

主に瀬田公民館（大津市大江三丁目2-1）2階で活動

ボランティア活動にご興味のある方は遠慮なくご連絡ください

▼hiyori.02@yahoo.co.jp





「輝く笑顔と涙のために」

8月8日(金)、今年も琵琶湖上に大きな花火を見ることができた。夕方からの雨で、直前まで開催の可否が心配されたが、「ヒュー…、バン!」という音とともに打ち上げられると集まっていた人々からは大きな歓声が上がった。観客の方々はもとより、花火師の方をはじめ交通整理、会場設営、広報活動等、運営に携わったすべての人々がほっとした瞬間だったのではないだろうか。今年も、素敵な花火が見られて本当によかった。

さて、花火大会が盛大に行われ人々の波が琵琶湖から遠ざかった頃、滋賀県から少し離れた場所で、もう一つのドラマが続いていた。甲子園球場では、今年初出場を果たした滋賀県代表綾羽高校が熱戦を繰り広げていた。延長戦まで続いた高知中央高校との熱戦は6対4、綾羽高校が甲子園初勝利を収めた。終了時刻は22時46分、大会史上最も遅い時間まで続いた試合となった。試合後には、選手たちの笑顔が眩しいほどに輝いていた。甲子園には、滋賀県予選で対決した近江高校の吹奏楽部やダンス部が応援に駆け付けていた。そんな温かいストーリーにも後押しされて、試合会場内外では多くの人々が喜びに包まれた。

明るいことも、そうでないことも、様々な話題が世間を沸かせ、テレビやインターネットを通してではあるが観戦する中で多くの感動をもらった。負けて泣く選手もいれば、勝って涙を流す選手もいる。3年間、この日のために努力を重ねた選手自身だけが味わえる、特別な「何か」があるに違いない。試合の結果だけではなく3年間の苦楽が、仲間と過ごした日々が、涙となってこぼれるその表情は勝者敗者かかわらず、とても輝いていた。部活動の在り方について全国的に試行錯誤がつづく今日、環境の変化はあれど子どもたちが一所懸命に何かに打ち込み、輝ける場所をつくり続けることが私たち大人の役目だと、改めて感じた。

あとがき

今年は滋賀県で「わたしのSHIGA輝く国スポ・障スポ2025」が開催されました。また、大阪府では「国際博覧会(大阪・関西万博)」も開催されました。それぞれのイベントで多くの人々がスポーツや国際的な文化に触れ、学ぶ貴重な機会となりました。こうした経験を通じて、多様な価値観や個性が育まればよいなと思います。

「意見や」感想は
〒520-0047
(大津市浜大津四丁目1-11明日都浜大津1階)
大津市 政策調整部 人権・男女共同参画課
(0528-2761)
(mail: otsu1006@city.otsu.lg.jp) #6

第49回

「わたしと人権」作品を募集しています

人権を守る大津市民の会では「人権の尊重された明るい社会」をめざし、作文、詩、標語、ポスター等の募集を行っています。女性、子ども、高齢者、障がい者、同和問題、外国人などの人権にかかわる問題をぜひ作品にしてご応募ください。

1 応募要領

(1) 応募締切

令和7年12月5日(金)

(2) 応募資格

大津市に在住・在学・在勤の方

市内の保・幼・こ・小・中・高校生の個人の作品については、学校園を通してご応募ください。ただし、高校生は直接応募していただいても構いません。

(3) 募集作品 (未発表の作品に限ります。)

部 門	応募にあたって注意すること等
作 文	原稿用紙に記入(1,200字以内)
詩	内容は、「感想文」・「主張」・「体験記」・「意見」など
標 語	ハガキまたは、ハガキ大の用紙でご応募ください。(ハガキ1枚で複数応募可能)
ポスター	画用紙(4つ切)。作品には、 人権の尊重された明るい社会にふさわしい文字 を必ず添えてください。
その他	パネル1枚(横120cm×縦180cm)以内でパネルに掲示可能な作品 人権尊重をアピールするにふさわしい作品(集団作品など上記四部門以外)

「住所・氏名・タイトル・年齢・電話番号」を明記してください。

2 審査・発表

- * 作品審査は令和7年12月下旬の予定。審査結果は公表し、入賞者には直接通知します。
- * 特別賞・特選受賞者には賞状と記念品を、佳作受賞者には賞状を贈呈します。
- * 特別賞受賞者には、「ほのぼの賞」・「すこやか賞」・「ふれあい賞」・「ときめき賞」・「さわやか賞」の各賞を授与し、表彰式で賞します。
- * 入賞作品は、冊子「わたしと人権」や大津市のホームページ等で公表するとともに、様々な団体や機関の人権啓発活動の資料として活用します。公表する際には、作品、学校園名、学年、氏名(一般の方はお住まいの地域)が公表されますので、ご了承の上で応募してください。なお、作品の著作権は大津市及び人権を守る大津市民の会に属しますのでご了承ください。
- * 応募作品につきましては、原則返却いたしません。

3 送り先・問合せ先

☎520-8575 大津市御陵町3番1号

大津市教育委員会事務局 生涯学習課内
「人権を守る大津市民の会」事務局

☎(直通)528-2635